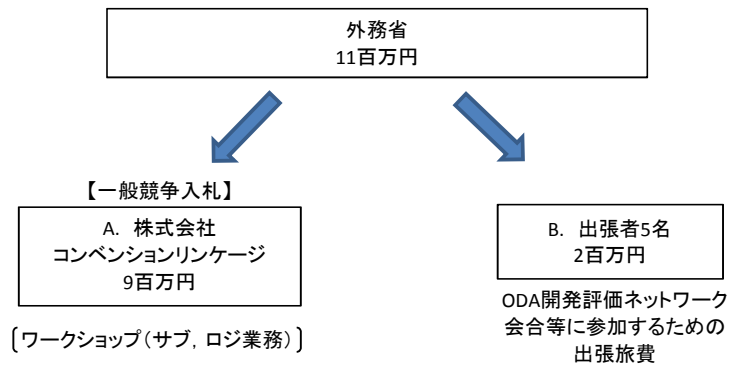


平成23年行政事業レビューシート (外務省)

事業名	ワークショップ等の開催及び国際社会との連携に必要な経費		担当部局	大臣官房		作成責任者		
事業開始・終了(予定)年度	平成13年度開始		担当課室	ODA評価室		室長 湊 直信		
会計区分	一般会計		施策名	VI-1 経済協力				
根拠法令 (具体的な条項も記載)	外務省設置法第4条第1項		関係する計画、通知等	ODA改革・15の具体策、外務省改革「行動計画」、点検と改善2006				
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	●ODA評価ワークショップは、主にアジア・大洋州諸国の評価部局実務者レベルを招待し、ODA評価の手法、課題、或いは国際的な潮流等について情報を共有し、被援助国のODA評価の理解増進や能力向上を図ると同時に、同地域におけるトップ・ドナー国としての主導的な役割を発揮し、プレゼンスの維持・強化を図るもの。 ●OECDの下部機関であるDAC開発評価ネットワークに参加し、ODA評価の国際潮流を把握すると共に、国際社会との連携を図るもの。							
事業概要 (5行程度以内。別添可)	●ODA評価ワークショップはアジア・大洋州地域の政府評価部局実務者或いは専門家を招待して、毎年1回、国内外で開催。平成22年度はベトナムで第10回会合を開催し、我が国主催の会議として定着・認識されるに至っている。本ワークショップでは、ODA評価の重要性、手法、課題、或いは国際的な潮流等につき途上国側の理解増進を図るもので、アジア・太平洋地域におけるODA評価能力の向上が期待される。なお、本ワークショップには国際機関等の参加も得ており、我が国の主体的な取組みとして高く評価されている。 ●OECD-DAC開発評価ネットワークでは、測定可能な指標を伴う目標を設定し、評価・モニタリングを行って援助を管理していくための議論を行っており、我が国としても積極的に参加して、援助効果向上等の国際社会の動きをフォローし、他ドナーとの連携を図ると共に、我が国の評価にかかる情報発信も行っている。							
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 業務委託等 ☐ 補助 ☐ 貸付 ☐ その他							
予算額・執行額 (単位:百万円)	予算の状況	当初予算	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度要求	
		補正予算	-	-	-	-		
		繰越し等	-	-	-	-		
		計	19	15	17	2	15	
		執行額	12	10	11			
	執行率(%)	62.3	63.8	65.7				
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標			単位	20年度	21年度	22年度	目標値 (24年度)
	【成果目標】アジア太平洋諸国の評価能力向上、同地域における我が国プレゼンスの強化及び我が国ODA政策の理解促進。DACを通じた国際社会との連携強化。		出席数 (予定)	人	44 (30)	28 (30)	23 (30)	25 (30)
	【成果実績】出席者数実績(我が国及び開催国参加者を除く)		出席率	%	146.7	93.3	76.7	
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標			単位	20年度	21年度	22年度	23年度活動見込
	●年1回開催(平成22年度はベトナムで開催。国際機関のオブザーバー参加を含め、総計約50名が出席)。		活動実績 (当初見込み)	開催回数 (WS)	1(1)	1(1)	1(1)	(0)
	●DAC開発評価ネットワークの定期会合への出席(平成22年度は計3回出席)。			出席数 (DAC)	2(2)	2(2)	3(2)	-(2)
単位当たりコスト	ワークショップ開催(10,039千円/1回) DAC開発評価会合出席(298千円/1回)		算出根拠	ODA評価ワークショップ開催経費(1回)/10,039千円 (平成22年度実績) DAC開発評価ネットワーク会合出席のための出張3回/895千円 (平成22年度実績)				
平成23・24年度予算内訳 (単位:千円)	費目	23年度当初予算	24年度要求	主な増減理由				
	職員旅費	2,086	3,717	●過去10年間に亘り開催したODA評価ワークショップは、アジア地域のODA評価能力の向上に効果を上げており、域内途上国側やドナー・コミュニティ(DACメンバー国及び国際開発機関)から、我が国の取り組みへの高い評価と継続への期待を得ている。				
	謝金	0	11,436	●平成22年度は、評価結果のフィードバック強化及び見える化の促進という喫緊の課題に対応するため、評価データベースを構築することとし、本件ワークショップの開催を見送った経緯がある。他方、国際社会からはワークショップ継続の強い期待が示されており、当省として、ODA評価を巡る新たな潮流(合同評価への高いニーズ、途上国側能力の成熟とニーズの多様化、域内ネットワーク構築の必要性等)に応えるためにも、平成23年度は、ワークショップを過去の実績に基づき発展的な形で開催し、我が国が引き続きリーダーシップを発揮し、国際社会に積極的に貢献することを目指すもの。				
	計	2,086	15,153					

事業所管部局による点検			
	評価	項目	特記事項
目的・予算の状況	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業ではないか。	
	○	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ、費目・使途	○	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	
	○	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	—	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績、成果実績	○	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	
	○	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	○	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	○	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。	
	○	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	
点検結果	●ODA評価ワークショップは、平成21年度に、議事録作成等に従事する業者（サブ業務）と会場設営・招待客接遇等に従事する業者（ロジ業務）を分け、後者については一般競争入札に付すことでコスト削減を行ったが、平成22年度ワークショップでは、サブ業務の一部及びロジ業務を一括で一般競争入札に付し、主要なサブ業務を当室が担うことで、より価格競争を高め、更なるコスト削減を実現した。なお、精算時には、精算書の証拠書等を当室で厳密にチェックしており、これまで問題は生じていない。 ●DAC開発評価ネットワークへの参加（出張旅費）については、重要な会議・会合に限定しており、出張者はより安価な航空券（PEX料金）を使用する等、予算を適切に執行している。		
予算監視・効率化チームの所見			
現状通り	—		
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点（概算要求における反映状況等）			
—			
補記（過去に事業仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載）			

※平成22年度実績を記入



資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:百万円)

費目・使途 (「資金の流れ」 においてブロッ クごとに最大の 金額が支出され ている者につい て記載する。費 目と使途の双方 で実情が分かる ように記載)	A.			E.		
	費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
	旅費	参加者航空運賃等	5			
	宿泊費	参加者宿泊費(食事, 接遇一般含む)	2			
	資料等作成費	配布資料、会議録、報告書作成	1			
	人件費	人件費(4名), 現地出張費	0.9			
	管理費	配布資料、会議録、報告書作成	0.4			
	計		9	計		0
	B.			F.		
	費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
	計		0	計		0
	C.			G.		
	費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
	計		0	計		0
	D.			H.		
	費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
	計		0	計		0

支出先上位10者リスト

A.

	支 出 先	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	入札者数	落札率
1	株式会社コンベンションリン ケージ	ODA評価ワークショップのロジ業務(航空券手配, 会場設営等)及び サブ業務(報告書作成等)の業務委託	9	3	72.6
2					
3					
4					
5					

B

	支 出 先	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	入札者数	落札率
1	出張者A	DAC開発評価ネットワーク出席	0.6		
2	出張者B	ODA評価ワークショップ出席	0.4		
3	出張者C	ODA評価ワークショップ出席	0.4		
4	出張者D	DAC開発評価ネットワーク出席	0.3		
5	出張者E	ODA評価ワークショップ出席	0.2		
6					
7					
8					
9					
10					